

第6回いわき市下水道事業等経営審議会議事録

○ 日 時 令和5年6月29日(木) 午後2時～午後3時15分

○ 場 所 本庁舎第3会議室

○ 出席者 1 委員

(出席：12名)

秋葉米造、飯田教郎、井上久美子、岡光義、金田晴美、
河合伸、木町元康、小松ひと美、鈴木俊彦、原田正光、
蛭田光治、油座順子 ※五十音順・敬称略

2 事務局

・生活環境部

渡邊生活環境部長

蛭田生活環境部次長

・生活排水対策室

渡辺生活排水対策室長

・経営企画課

佐藤経営企画課長、田仲経営企画課課長補佐、

鈴木経営企画係長、吉田財務係長、志賀業務係長、

宇佐美主査、小野主査

・下水道事業課

矢吹下水道事業課長

・北部下水道管理事務所

吉村北部下水道管理事務所長

・南部下水道管理事務所

小松南部下水道管理事務所長

○ 配布資料 ・令和4年度決算状況と経費回収率の考え方について

・**別添資料** 各年度の下水道事業会計決算

1 開会

4月の人事異動により事務局の構成に変更があったため、事務局職員の紹介をした。

2 報告

(前回の議事録について)

第5回経営審議会の議事録について、議事録署名人による署名後、5月11日に市公式ホームページへ掲載したことを報告した。

3 議事

(1) 議事録署名人の選出について

今回の議事録署名人は、会長の指名により、鈴木委員と蛭田委員に決定した。

(2) 令和4年度決算状況について

- ・事務局説明
- ・質疑応答

(委員)

公営企業会計ということで地方公営企業法施行規則別記第一号の予算様式第三条と第四条の規定で収益的収支と資本的収支に区分されているが、一般の企業でいうと、収益的収支は PL 損益計算書、資本的収支が BS 貸借対照表ということで合っているか。

(事務局)

お見込みのとおりであります。詳しく申し上げますと、損益計算書は一事業年度における収入と支出を表示したものであり、収益的収支の数値が反映されています。

また、貸借対照表は一時点における当該事業に関する資産・負債等の財政状態を総括的に表示したものであり、資本的収支はその要素である設備資産や企業債等の増減により貸借対照表に反映されています。

(委員)

全体的な流れで、国では、下水道会計は昔からずっと赤字なので、企業会計にして、なるべく本会計からの持ち出しを少なくしようとしている。そこで、10年概成という形で、10年でだいたい事業を終わらせ、それ以降については、国庫補助金や交付金を出さなくなる可能性がある、というような流れだと思う。

しかし、この表を見ると純利益が出ていて、一見見ると黒字になっている。下水道事業は赤字だというのが定説だと思っていたので、決算方法をどのようにしているか教えて欲しい。

(事務局)

お見込みのとおり、基本的に下水道事業は赤字であったことから、令和元年度に使用料改定を行った。その当時に、下水道事業経営戦略の計画を立てたのが表の計画欄の金額になっており、実績と比較すると収支が改善されているが、表中の収益的収支のうちその他の収入が増となっている。これは、計画では見込んでいなかった収入増により、収支が改善されたものである。

例えば、令和元年度だと、その他収入が計画より3.1億円増加で、収支は2.5億円増加となったが、その他収入が無ければ計画と比較して収支は悪化していた。この、その他収入は、主に、毎年東京電力からの損害賠償金で、令和元年度は約2億円、令和2年度は4500万円、令和3年度は約5億円となっており、臨時的な収入、本来の営業とは違う収入があって、収支としては、いずれも改善したように見えるような形となっている。

(委員)

別添資料の1の企業債について、資本的収支の表では、企業債の収入が29.5億円で、償還金が41億円となっているが、企業債が減っているとい

うことか。他年度についても同じなので、企業債は、毎年順調に減っていると見るのか。

(事務局)

収入のほう企業債は、その年の建設改良費、要は新築、改修などの工事費等に要する費用に対して借りているもの。

支出の企業債償還金については、前年度以前に建設改良費で作る際に借りた企業債の元金の返済というものになる。

基本的に企業債については、償還に伴い、残高については、毎年度数字が減っていくようになる。

(委員)

市の財政の資料を見ると、いわき全体の債権の残高が1千数百億円で、そのうち下水道が500億円を超えているので、数字的に気になっている。

企業債は、大きく返して少し借りるというパターンできているが、毎年、これを繰り返すことで、例えば、あと何年か後にゼロにするというような展望はあるか。

(事務局)

企業債の考え方については、建設改理事業費を投じた施設は、長期間にわたって使用されるので、その建設に投じた金額を、作った当時の受益者ですべて賄うといった考えではなく、将来にわたって、例えば30年後、50年後の受益者にも負担していただくといった考え方である。

ポンプ場の工事、汚水処理施設の工事など、莫大な金額を投じて改良工事を行っているが、毎年工事を行いながら、毎年企業債を借りていくということなので、最終的に0になることはない。

ただ、いつまでたっても借金が残っている状況は思わしくないなので、収支のバランスを考えながら、建設改良工事の計画作りをしていきたい。

(委員)

別添資料5の、令和4年度実績と令和5年度の収支見通しで、差が大きい項目について、その理由を教えて欲しい。なお、令和5年度は見通しということなので、明確な説明が難しければ、概要で結構である。

1点目は、収益的収支の中で、他会計負担金が、令和4年の実績が31.5億円に対し、令和5年の予算が35.6億円に増額となっているのは、雨水処理が増えるということか。

次に、支出の維持管理費が、令和4年の実績が29.9億円に対し、令和5年度の予算が33.3億円、これは、維持管理費が増えるということだと思うが、主な理由は何か。

最後に、資本的収支の項目の国・県補助金について、令和4年度の計画が6.7億円に対し、実績が14.9億円となっている。また、令和5年の予算が10.2億円で、結構大きな変動が出ているように思うが、その理由は何か。

(事務局)

令和5年度の収支見通しの計画額は、令和元年の時点での社会情勢で作成したもので、予算額は、ここ昨今の電気代などの物価や人件費の高騰な

どが要因で、収支とも増額となっている。

令和5年度の支出の維持管理費は、7.4億円増となっているが、全額ではないものの、主な理由は電気代高騰である。また、それに合わせて、収入の他会計負担金の4.5億円増については、電気代高騰は全国的であり、緊急的なものであることから、一般会計から補填されることとなり、収入と支出の増についてはリンクしている。なお、令和4年度実績と令和5年度予算の差も、同じように電気代の高騰による増加が主な理由である。

資本的収支の国県補助金の金額が増額になっている理由は、計画は令和元年度に作成しているが、その時は、補助対象の工事になるか分からなかったが、令和4年度や令和5年度の予算編成を行う際に、当該年度に整備する予定の工事が補助対象に該当する工事費となり、補助金額が増となったものである。

(3) 経費回収率の考え方について

- ・事務局説明
- ・質疑応答

(委員)

15ページの資本費で、汚水分のうち分流式下水道に要する経費の一部は公的な便益も認められるということで公費により負担となっているのだが、図では汚水分の内数になっていて、次ページの経費回収率の分母も、分流式分を含んだ汚水の費用となっているが、分流式分は公的負担なので、汚水分から除けば、回収率上がるのではないか。

(事務局)

お見込みのとおり、実際に分流式の公費分を除けば経費回収率は上がる。

この数値は、国で毎年公表しているもので、国でも、分流式分を控除する前の経費回収率と、控除した後の経費回収率の、2種類の経費回収率を公表している。また、2種類の経費回収率についても、経営戦略の中で巻末の用語解説にも記載されている。

基本的には下水道で整備しているので、費用としては下水道がまず負担し、該当分を公費で充当している形になっている。そこについては、二つの数字があるというところを理解していただきたい。

考え方になるが、どちらが良いとは言えないが、今後の使用料改定の協議の中でも議論していただければと思う。

(委員)

17ページの類似都市の分類について、以前説明があったときにも同じような指摘をしたが、いわき市は広域都市で処理区が分かれているので、類似都市に分類する際は、5万人から10万人ぐらいの区分に該当すると思う。この表での類似都市は、例えば、近隣だと郡山とか福島とかも該当していると思うが、30万人ぐらいの都市でも、郡山とかは流域下水道など、結構広域処理をしているが、いわき市は、市内に4つ処理区があり、いわきは頑張っていると思う。

いわき市は、類似都市のこの定義から外れていると思うので、類似都市

から比べると、いわき市は頑張っている、というところを見せるためには、この類似都市の 84.3 と比較するのは疑問である。

(事務局)

こちらの類似都市についても、毎年国が公表している指標の中で、分類が決められており、国が示している分類の仕方で載せている。

委員のご指摘のとおり、本市と実情に近い自治体との比較を行うことも方法の一つと考えられる。

(委員)

今回の資料では、もう少し事実在即したところと比較して出したほうがいいと思う。

(4) その他

(会長)

今後の予定のところ、何か質問あるか。

(委員)

使用料は、人口と正比例するので、やはり人口の推移が、使用料の計算の大元になると思うので、今後の人口見通しとして、再度、市の人口ビジョンなどの資料で、次回までに明確にしていきたい。

4 その他

次回開催日について、決まり次第、連絡する旨を案内した。

5 閉会

以上